

〔大阪〕



## 平成29年度 学術講演会

こんな話が聞きたかったシリーズ第4弾 ～治療家の夢 可能性を信じて～  
講師:小波津SPORTS MEDICAL LABO代表 小波津 祐一 先生(40期)

大阪府支部・学術委員 47期 中澤 直彦

平成29年5月13日(土)、大阪道頓堀ホテルにおいて、平成29年度の学術講演会が開催され、会場が埋め尽くされるほどの先生方にご参加いただきました。

今回は、現役当時に大きなケガで引退をささやかれていた、元大リーガーの松井秀喜選手や、同じく大ケガをされた阪神の金本監督を劇的な復活に導かれた小波津SPORTS MEDICAL LABO代表 小波津祐一先生をお招きし、『こんな話が聞きたかったシリーズ第4弾』 ～治療家の夢 可能性を信じて～と題してご講演をいただきました。

講師ご本人のケガの経験から柔整師を目指され開院をされましたが、日々の施術現場やプロトレーナーを目指されていた中で、思い描いていた理想と現実との違いに葛藤し、もっと専門家として出来ることは無いかと試行錯誤され、「小波津式神経筋無痛療法」を考案されたことが冒頭に話されました。

そして、手技によって神経に刺激を与え、脳からの指令が正しく筋肉に伝わることで痛みが取れ、運動能力が向上するという小波津先生の施術の話から、国内外問わずオファーが来る様になった現在までのエピソードと症例を交え、徒手施術の可能性についてお話しをいただきました。

ニューヨークヤンキースの松井選手がワールドシリーズMVPに選ばれる裏では何が行われきたのか?阪神時代の金本選手が世界で初めて腱板広範囲断裂から復帰するまでのエピソード。左右前十字靭帯断裂後も活躍するハンドボーラー。そして、オリンピック選手からのオファーなど、これからの柔道整復師にとって、とても希望の持てる内容で、今までの考えは本当に正しいのだろうか?常識とは何なのか?など、疼痛・運動・安定の考え方が覆される事例が多くありました。

講演を通じて、常識に今一度目を向けなおし、諦めない気持ちが大切なのだと思います。

最後に小波津先生から「柔道整復師を子供たちの憧れの職業にし、また、どんな時代でも施術の価値を示していきたい。そして夢を与えられる仕事にしたい」と、締めくくっていただきました。

我々柔道整復師は、様々な形で患者と向き合い、目をそらさずとともにゴールを目指していくことが大切だと感じました。

講師の小波津先生に今一度、お礼を申し上げます。運営の先生方、ご参加の皆様、お疲れ様でした。



講演される小波津祐一先生

〔京都〕



## 行岡京都支部研修会・懇親会

京都府支部長 41期 田中 弘昭

平成29年9月10日(日)正午より、からすま京都ホテル2F 『中華料理 桃李』にて行岡京都支部研修会・懇親会を開催しました。

学校側の来賓として田中勇二教務主任にご来臨を賜り、本支部での出席者は、佐藤隆信先生、笹岡正典先生、布施賢太郎先生、柳生広昭先生、私を加えて5人でした。

研修会では、僭越ながらも私がお挨拶させていただき、田中教務主任より最新の学校事情についてやその他大変有意義なお話をいろいろお聞かせいただきました。

佐藤先生の乾杯の音頭で懇親会が開宴し、美味なる中華料理を堪能し、美酒に酔いしれながら話に花が咲き、時間の経つのも忘れるほどでした。最後は笹岡先生の閉会の辞で大盛況のうちにおひらきとなりました。

例年では、一同そろって二次会に移動するところですが、今年は各々予定があるとのことで残念ながら来年の支部研修会・同窓会にてお逢いすることをお約束し、散会いたしました。



田中勇二先生のあいさつ



田中弘昭支部長



## 〔奈良〕



六段に昇段おめでとうございます



奈良県支部長 31期 前田 貴史

奈良県支部では、“行岡会”会誌《第22号》におきまして、旭日双光章を受章された、西尾勝彦会員(11期生)の記事をご紹介致しました。

今回は、講道館柔道六段に昇段された、石津佳和会員(42期生)をご紹介致します。現在、私と共に公益社団法人奈良県柔道整復師会で理事としてもご活躍中です。

石津先生、この度は六段へのご昇段、誠におめでとうございます。

石津会員は、奈良県天理市で「いしづ整骨院」を平成7年に開業、「怒濤館石津道場」を併設され、日々小・中学生を中心に柔道の指導に当たられています。柔道場は、石津会員の御尊父様が開設され、現在も館長としてご指導され、石津会員は館長補佐としてご活躍です。

四歳から柔道を始められ、幼少のころから特に寝技が好きで、将棋のような感覚で、相手の動きの先を読むことができ、その楽しさを伝えたいと聞きました。

また、平日頃から技の研究にも熱心に取り組まれ、「見た人の生き方のヒントにもなればなお嬉しい」との思いで、今まで温めてきたものを後進に伝えようと、ご自身であみだした「崩れ横四方固の逃れ方」をフェイスブックでも公開されています。

『六段とは、講道館では「師範」であり、より一層の責任感に駆られます』と、ご本人の談。

石津師範におかれましては、今後も将来を担う子供たちに、柔道を通じて健全な育成にご尽力頂きたいと思っております。

行岡会奈良県支部と致しましても、いしづ整骨院・怒濤館石津道場の益々のご繁栄をお祈り致します。

奈良県支部会では、平成30年度の支部会を年度内に開催の予定です。柔道整復に関する研修は重要ですが、柔道の技に関するレクチャーを石津師範にお願いして柔道談議に花を咲かせるのも一興かと考えます。

奈良県支部同窓生の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



## 〔和歌山〕



### 「棟梁の嘆き」

和歌山県支部長 28期 田中 宏彦

整骨院の玄関のドアに不具合が。日曜の休診日に修理をお願いし来て頂いた、いかにも頑固そうな年季の入った大工さんと…。

今時の若いヤツは、何を考えているのやら。

この間も、雇って欲しいと来たヤツだが、給料はいくらだとか、休みは何日だ？時間は何時までだ？おまけに社会保険はあるのかだと。何か勘違いしてないかい。

俺ら小僧の時は、夜明けから日の暮れまで現場。休みは正月。親父（師匠）からは小遣い銭。金を稼ごうと思って修行しに入ったんじゃ無いさかいな。

見習いって言う言葉通り、親父の技を盗んで、見て習う言葉そのものや。手取足取りなんて教えて貰うたことなんて無かったわ。

親父が、細工してるのを後ろから見てたら「さぼらんと、手え動かせ」って怒鳴られたわ。親父は、背中にも目ついてんのかと思わ。

普請の現場で、簡単に外せると思たらなかなか外れへん木組みを見て、親父が手を止めて「ええ仕事してるなあ～」「見えやんとこに大工の技と知恵がつまってるんや」と言うてたな。今は、木組みも出来やん大工が多い。ホッチキスとネジとボンドしか使わんさかいな。

親父はよう言うてたな、「知識と知恵は違う」「技術より技(ワザ)を磨け」

「知識」は、やってええこと、成功しか教わらん。「知恵」は、やったらかんこと、失敗を覚えるんや。成功ばかり教わっても、あかんかった時のことは解らん。あかんことを解っとけば、あとは工夫できるんや。大工冥利や。

「技術」は、どこからでも学べる。「技」はそれを自分の体で覚えるんや。

鈍くさいヤツ、器用なヤツ、職人はそうやって長い経験から覚えていくんじゃ。

一級設計士先生の図面通りには家は建たん。図面通りやったら、戸は開からん。寸法は、使う木のクセで決めるんじゃ。図面みたいに仕上げるんが大工よ。

親父から「次に家建てるんやったら、おまえの建てた家に住んでみたい」

嬉しかったなあ。

棟梁は、一服しながら、暮れかかった空を見て一瞬優しい顔に。

気のせいか、私が師事した師匠と重まりました。

なぜか、私自身も嬉しくなり、せっせと後片付けと掃除をお手伝い。

何年か後に、「今の若い柔整師は～」と講釈たれ、嘆いている自分の姿が目に見えます。